



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

no.49

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 三田設備 代表取締役

## 三田 浩 様

神奈川・東京を中心にホテルや福祉施設、集合住宅等の空調衛生設備の設計・施工を主に行っている横浜市青葉区の株式会社 三田設備。代表取締役 三田 浩氏にお話を伺いました。

### ■空調衛生設備の設計・施工

#### — どのようなお仕事をされていますか？

建設業は大きく分けて土木と建築に分かれ、建築の中の設備でも電気設備と機械設備とに分かれています。私共がやっている仕事は、建築工事の機械設備という部分になります。機械設備の中でも主に水廻りや換気、冷暖房など、空調衛生設備の設計や施工を請け負っています。最近は温泉系の施設を得意とするようになってきて、ホテル関係や、福祉施設等の温浴施設を含んだ工事物件の依頼が多くなりました。

#### ■知識の裏付けで人と仕事を動かす

#### — この業界に進まれたきっかけを教えてください。

大学での専攻は経済でしたが、父の友人がこの業界で事業をしていて、学生時代にアルバイトをしたことがきっかけで、卒業後アパレル・宝飾の販売会社を経て、



24~25歳の時にその会社で役員として働くことになりました。そこでは実際に現場でも働き、技術面だけでなく実践的なことも随分教えてもらいました。当時、私はまだ20代の頃、その会社の上司や先輩は50歳以上の人ばかりでした。もともと老舗サブコンの技術者で管理職だった彼らは、豊富な経験と高度な知識を備えていて、罵倒されながらも一から教わりました。特に設計は、簡単な算数で理解できるくらい噛み砕いてとても分かりやすく教えてもらって、それが今でもとても役立っています。どんな仕事に直面しても理解し、こなす自信があります。当時の経験で得た知識と技術は一生の財産なのかなと思っています。

その後、紆余曲折があり、印刷業なども経験して、15年程前から今の会社を立ち上げ現在の体制をとるようになりました。

#### — お仕事をする上で大切にしていることは何ですか？

嫌われないことですかね。学生時代就活中に、ある半導体の商社の面接を受けたとき、面接官に「自己の信条は何ですか？」と聞かれました。私は「人に嫌われないことです。」と答えたのですが、「三田君ね、そんなことばかり考えてやっていると社会人になったらつらいよ、自分を苦しめるよ。」と言われました。今でもあの時の面接官のことばは、覚えています。それでも、この思いは今も私の信条として貫いています。誰に対しても選り好みせず、これでもか、というくらい人を信じて嫌われないようにしています。仮に、利用されているとわかっていても、敢えて利用していただきたいという姿勢をとっています。私共の規模の企業のスタンスとしては、そういう思いがないと入り込めません。実際、私は人が好きなんです。



# 清潔で安心。 心地よい生活を支える 機械設備の設計・施工

より多くの人と接してコミュニケーションをとることで自分を高めてきたと思います。その甲斐あって、創業翌年くらいから今日に至るまで受注に関してはほぼ受け身で、お客様から成果を認められた上で継続させていただいています。またお客様からの紹介で販路も増え、受注規模も徐々に大きくなってきているところです。やはり間違いではなかったんですね。

## ——社員・作業員と接するとき心がけていることは？

私もこの業界に入った当時は職人さんと同行して一緒にやっていたので、正直言って、現場の作業に関しては十分な知識があります。当時はひどい扱いをされましたから。今は、仕事内容によりますが現場の環境はかなり整っています。昔は嘘だろ！と思うようなところにも入っていかなくてはならないこともありましたから。私の場合は、そういう大変な面も知っているの、改修工事などでは作業の効率と安全を考えて計画することを心がけています。

また、社員にはなるべく作業方法や手順の決定権を与えています。予算の組み立てや振り分けは私が全部しますが、予算表を作って渡して、それからの軽微な変更や、どっちを使うとかは自分で判断してもらい、何でこうなったのかだけを説明してもらうようにしています。そうやって本人に自主性とやりがいを感じてもらっています。最近では若い人材も入ってきています。プロの音楽活動をしている人もいて、持ちつ持たれつでシフトを調整したり、陰ながら活動を応援したりもしています。

## ——現業の魅力や、やりがいを感じるの はどういう時ですか？

創業した頃はどのようにこんなこと始めちゃったかな、なんて思っていました。難しい仕事をこなしていくにつれ、この分野が得意になって、周りの人より詳しくなり、なんでも説明できるようになってきて自信もつきました。今となってはこれしかないのかなって思っています。

一番喜びを感じるのは、工期・内容とも困難な工事が完了した時です。自分が初めから手掛けていたものはあまり心配ありませんが、実働するのは、たくさんの職種の毎回異なる外注の作業員です。当社の従業員との連携が必ずしもうまくいくとは限らず、最終的には必ず終わるので、自分がずっとそこに携わっていないと不安がすごく大きくなるんです。現場監督を経験している人は皆そういう思いをしているのではないのでしょうか。それが無事に終わった時には何よりホッとします。

## ■グローバル化を目指し さらなる成長を

### ——今後やってみたいことは？

いま冗談半分で言っているんですけど、東南アジアなどに進出するというのも良いかなと思っています。友人が東南アジアに住んでいて、東南アジアに家庭用

の温水洗浄便座を持って行ったら売れるのでは？なんて話をしています。ただ、水場にコンセントが付けられない、配管が細い、などの問題点も多いと聞いていますから、もろもろを解決できれば面白いかなって思っています。また、東南アジアの多くの地域では水道の蛇口から出る水は、生のままでは飲めません。簡単に浄化して飲めるような装置を活用できないのか？ 危険な害虫が多いのに、アミ戸をつける習慣がないなど、現状は、どうなっているかということに興味もあります。近々電機メーカーの販社の協力会で、タイに総会と施設の視察に行きます。タイはバンコクを中心に都市化が進んでいるようなので、実際どんなものなのか自分の目で見て来ようと思っています。今後はなるべく諸外国の環境にふれ、ビジネスチャンスがあればグローバル化も視野に入れていきたいと思っています。

現状をまもる事ばかり優先して新たな事にチャレンジしないしていると、今あるものも失いかねないと思います。0からのスタートなので、チャレンジ精神は忘れないようにしたいです。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、現在この業界は好況ですが、オリンピック後の仕事は伸び悩むとも言われていて、急に仕事なくなると危惧しています。だからこそ、新事業や東南アジアなど海外での事業を視野に入れ、邁進したいと思っています。

### <インタビューを終えて>

若い頃、先輩職人さんに交じって基礎から身に付けた知識と技術の経験が自信となり、会社を発展させる原動力になっているようです。心身ともに柔軟な若い時期に培ったものは人生の礎になるのだとつくづく感じました。

## 株式会社 三田設備

本社  
〒225-0001  
横浜市青葉区美しが丘西2-35-53  
TEL.045-905-2701 FAX.045-905-2703  
<http://www.mi-ta.com/>

本町営業所  
〒108-0073 東京都港区三田3-2-9 杉浦ビル2F  
TEL.03-6435-0403 FAX.03-6435-0404